

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年8月13日

【四半期会計期間】 第135期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 株式会社宮崎銀行

【英訳名】 The Miyazaki Bank , Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 平野 亘也

【本店の所在の場所】 宮崎県宮崎市橘通東四丁目3番5号

【電話番号】 宮崎(0985)27 3131(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員経営企画部長兼収益管理室長兼IT戦略室長 日高 啓司

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋本町四丁目4番2号 東山ビルディング内
株式会社宮崎銀行 経営企画部 東京事務所

【電話番号】 東京(03)3241 5131

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 川崎 秀行

【縦覧に供する場所】 株式会社宮崎銀行 東京支店
(東京都中央区日本橋本町四丁目4番2号)
株式会社宮崎銀行 福岡支店
(福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号)
株式会社宮崎銀行 鹿児島営業部
(鹿児島市山之口町12番9号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

(注) 東京支店、福岡支店及び鹿児島営業部は金融商品取引法の規定による縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜のため縦覧に供する場所としております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		2018年度 第1四半期 連結累計期間	2019年度 第1四半期 連結累計期間	2018年度
		(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
経常収益	百万円	14,501	13,796	53,444
経常利益	百万円	4,311	3,309	13,610
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	3,126	2,199	
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円			9,729
四半期包括利益	百万円	3,736	1,234	
包括利益	百万円			6,936
純資産額	百万円	149,425	152,173	151,878
総資産額	百万円	3,020,989	3,131,627	3,101,632
1株当たり四半期純利益	円	181.61	127.64	
1株当たり当期純利益	円			564.73
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益	円	180.96	127.23	
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	円			562.99
自己資本比率	%	4.93	4.84	4.88

(注) 1 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行および当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、当四半期連結累計期間での重要な変更は該当ありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

財政状態及び経営成績の状況

(1)財政状態

当第1四半期連結会計期間末（2019年6月30日）における財政状態につきましては、総資産は、前連結会計年度末に比べ300億円増加して3兆1,316億円、純資産は、同3億円増加して1,521億円となりました。

主要な勘定科目につきましては、貸出金は、個人貸出が増加したものの、法人貸出および公共貸出が減少したことから、前連結会計年度末に比べ47億円減少して1兆9,916億円、有価証券は、同19億円減少して6,586億円、預金・譲渡性預金は、個人預金、法人預金、公金預金ともに増加したことから、同721億円増加して2兆6,089億円となりました。

(2)経営成績

当第1四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年6月30日）の業績につきましては、経常収益は、貸出金利息および有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加したものの、預り資産手数料の減少により役務取引等収益が減少したこと、国債等債券売却益の減少によりその他業務収益が減少したこと、貸倒引当金戻入益や株式等売却益の減少によりその他経常収益が減少したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ705百万円減少して13,796百万円となりました。

一方、経常費用は、国債等債券償還損の減少によりその他業務費用が減少したものの、貸倒引当金繰入額や株式等売却損の増加によりその他経常費用が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ297百万円増加して10,486百万円となりました。

以上により、経常利益は、前第1四半期連結累計期間に比べ1,002百万円減少して3,309百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、同927百万円減少して2,199百万円となりました。

各セグメント別の業績は、次の通りであります。

銀行業（銀行業務）

経常収益は、貸出金利息および有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加したものの、預り資産手数料の減少により役務取引等収益が減少したこと、国債等債券売却益の減少によりその他業務収益が減少したこと、貸倒引当金戻入益や株式等売却益の減少によりその他経常収益が減少したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ790百万円減少して12,027百万円となりました。

一方、経常費用は、国債等債券償還損の減少によりその他業務費用が減少したものの、貸倒引当金繰入額や株式等売却損の増加によりその他経常費用が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ182百万円増加して8,841百万円となりました。

以上により、経常利益は、前第1四半期連結累計期間に比べ973百万円減少して3,185百万円となりました。

リース業（リース業務）

経常収益は、リース料収入が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ71百万円増加して1,731百万円となりました。経常利益は、リース原価等が増加したものの経常収益の増加がそれを上回り、前第1四半期連結累計期間に比べ20百万円増加して108百万円となりました。

その他（信用保証業務等）

経常収益は、保証料収入が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ24百万円増加して230百万円となりました。経常利益は、経常収益が増加したものの与信関連費用が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ49百万円減少して19百万円となりました。

(参考)

国内業務部門・国際業務部門別収支

資金運用収益は、貸出金利息および有価証券利息配当金が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ139百万円増加して8,724百万円となりました。一方、資金調達費用は、社債利息が減少したものの、債券貸借取引支払利息が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ10百万円増加して353百万円となりました。その結果、資金運用収支は、前第1四半期連結累計期間に比べ129百万円増加して8,370百万円となりました。

役務取引等収支は、預り資産手数料が減少したことおよび支払ローン手数料が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ112百万円減少して865百万円となりました。

その他業務収支は、国債等債券償還損が減少したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ141百万円増加して230百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	8,065	176		8,241
	当第1四半期連結累計期間	8,169	201		8,370
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	8,339	249	3	8,585
	当第1四半期連結累計期間	8,456	274	6	8,724
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	273	73	3	343
	当第1四半期連結累計期間	286	73	6	353
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	972	4		977
	当第1四半期連結累計期間	860	4		865
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	2,068	11		2,079
	当第1四半期連結累計期間	1,992	11		2,003
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	1,095	6		1,102
	当第1四半期連結累計期間	1,131	6		1,137
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	137	48		89
	当第1四半期連結累計期間	214	15		230
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	2,073			2,073
	当第1四半期連結累計期間	1,997	32		2,030
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	1,935	48		1,984
	当第1四半期連結累計期間	1,783	16		1,799

(注) 1 「国内業務部門」は国内店の円建取引並びに子会社の取引、「国際業務部門」は国内店の外貨建取引であります。

ただし、円建対非居住者取引等は、「国際業務部門」に含めております。

2 「相殺消去額()」は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借利息であります。

3 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間1百万円、当第1四半期連結累計期間1百万円)を控除して表示しております。

(参考)

国内業務部門・国際業務部門別役務取引の状況

役務取引等収益は、預り資産手数料が減少したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ76百万円減少して2,003百万円となりました。役務取引等費用は、支払ローン関係手数料が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ35百万円増加して1,137百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	2,068	11	2,079
	当第1四半期連結累計期間	1,992	11	2,003
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	881		881
	当第1四半期連結累計期間	863		863
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	539	10	550
	当第1四半期連結累計期間	534	10	545
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	405		405
	当第1四半期連結累計期間	351		351
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	129		129
	当第1四半期連結累計期間	126		126
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	1,095	6	1,102
	当第1四半期連結累計期間	1,131	6	1,137
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	95	6	101
	当第1四半期連結累計期間	95	6	101

(注) 「国内業務部門」は国内店の円建取引、「国際業務部門」は国内店の外貨建取引であります。

(参考)

国内業務部門・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	2,382,050	5,702	2,387,752
	当第1四半期連結会計期間	2,455,557	6,665	2,462,223
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	1,570,321		1,570,321
	当第1四半期連結会計期間	1,624,500		1,624,500
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	802,657		802,657
	当第1四半期連結会計期間	813,323		813,323
うちその他	前第1四半期連結会計期間	9,071	5,702	14,773
	当第1四半期連結会計期間	17,733	6,665	24,399
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	182,719		182,719
	当第1四半期連結会計期間	146,678		146,678
総合計	前第1四半期連結会計期間	2,564,769	5,702	2,570,471
	当第1四半期連結会計期間	2,602,235	6,665	2,608,901

(注) 1 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

2 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

3 「国内業務部門」は国内店の円建取引、「国際業務部門」は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は「国際業務部門」に含めております。

(参考)

貸出金残高の状況

業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,931,269	100.00	1,991,660	100.00
製造業	117,591	6.09	114,471	5.75
農業、林業	30,937	1.60	30,904	1.55
漁業	4,097	0.21	4,672	0.23
鉱業、採石業、砂利採取業	646	0.03	625	0.03
建設業	42,037	2.18	43,614	2.19
電気・ガス・熱供給・水道業	62,214	3.22	65,475	3.29
情報通信業	10,076	0.52	12,549	0.63
運輸業、郵便業	44,514	2.31	41,388	2.08
卸売業、小売業	131,193	6.79	133,236	6.69
金融業、保険業	37,995	1.97	34,065	1.71
不動産業、物品賃貸業	311,270	16.12	328,404	16.49
学術研究、専門・技術サービス業	6,630	0.34	6,196	0.31
宿泊業、飲食サービス業	18,494	0.96	19,905	1.00
生活関連サービス業、娯楽業	22,549	1.17	21,060	1.06
教育、学習支援業	7,851	0.41	8,766	0.44
医療、福祉	154,652	8.01	160,647	8.07
その他サービス業	29,151	1.51	28,741	1.44
地方公共団体	295,385	15.29	280,355	14.08
その他	603,987	31.27	656,587	32.96
特別国際金融取引勘定分				
政府等				
その他				
合計	1,931,269		1,991,660	

3 【経営上の重要な契約等】

該当ありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,710,000
計	29,710,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月13日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	17,633,400	17,633,400	東京証券取引所市場第一部 福岡証券取引所	単元株式数は 100株であり ます。
計	17,633,400	17,633,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日		17,633		14,697		8,771

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 399,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,131,900	171,319	
単元未満株式	普通株式 101,600		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	17,633,400		
総株主の議決権		171,319	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ100株(議決権1個)及び70株含まれております。

2 「単元未満株式」には、当行所有の自己株式56株が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 宮崎銀行	宮崎市橘通東 四丁目3番5号	399,900		399,900	2.26
計		399,900		399,900	2.26

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
現金預け金	363,125	388,936
コールローン及び買入手形	2,515	4,808
買入金銭債権	64	57
金銭の信託	12,000	14,022
有価証券	660,594	658,603
貸出金	¹ 1,996,340	¹ 1,991,660
外国為替	2,317	2,319
リース債権及びリース投資資産	10,631	10,543
その他資産	31,714	34,922
有形固定資産	23,233	23,252
無形固定資産	3,002	3,607
繰延税金資産	1,279	1,350
支払承諾見返	2,674	5,717
貸倒引当金	7,859	8,174
資産の部合計	3,101,632	3,131,627
負債の部		
預金	2,419,229	2,462,223
譲渡性預金	117,625	146,678
コールマネー及び売渡手形	109,604	6,575
債券貸借取引受入担保金	141,512	198,722
借入金	138,262	138,374
外国為替	16	23
その他負債	10,452	11,016
役員賞与引当金	40	-
退職給付に係る負債	7,756	7,565
睡眠預金払戻損失引当金	265	245
偶発損失引当金	115	112
再評価に係る繰延税金負債	2,199	2,199
支払承諾	2,674	5,717
負債の部合計	2,949,754	2,979,454
純資産の部		
資本金	14,697	14,697
資本剰余金	12,819	12,819
利益剰余金	110,318	111,570
自己株式	1,241	1,242
株主資本合計	136,593	137,844
その他有価証券評価差額金	14,365	13,304
土地再評価差額金	2,821	2,821
退職給付に係る調整累計額	2,271	2,179
その他の包括利益累計額合計	14,915	13,946
新株予約権	160	170
非支配株主持分	207	211
純資産の部合計	151,878	152,173
負債及び純資産の部合計	3,101,632	3,131,627

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
経常収益	14,501	13,796
資金運用収益	8,585	8,724
(うち貸出金利息)	6,317	6,402
(うち有価証券利息配当金)	2,238	2,287
役務取引等収益	2,079	2,003
その他業務収益	2,073	2,030
その他経常収益	1 1,763	1 1,038
経常費用	10,189	10,486
資金調達費用	344	355
(うち預金利息)	47	47
役務取引等費用	1,102	1,137
その他業務費用	1,984	1,799
営業経費	6,671	6,647
その他経常費用	2 86	2 547
経常利益	4,311	3,309
特別利益	-	1
固定資産処分益	-	1
特別損失	1	7
固定資産処分損	1	2
その他の特別損失	-	5
税金等調整前四半期純利益	4,310	3,303
法人税、住民税及び事業税	895	948
法人税等調整額	285	151
法人税等合計	1,180	1,099
四半期純利益	3,129	2,203
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,126	2,199

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	3,129	2,203
その他の包括利益	606	969
其他有価証券評価差額金	442	1,061
退職給付に係る調整額	164	92
四半期包括利益	3,736	1,234
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,733	1,230
非支配株主に係る四半期包括利益	3	4

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 税金費用の処理

連結子会社の税金費用は、当第1四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
破綻先債権額	285百万円	455百万円
延滞債権額	19,387百万円	19,642百万円
3ヵ月以上延滞債権額	百万円	百万円
貸出条件緩和債権額	11,446百万円	12,069百万円
合計額	31,119百万円	32,166百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
貸倒引当金戻入益	388百万円	百万円
株式等売却益	760百万円	365百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
貸倒引当金繰入額	百万円	314百万円
株式等売却損	36百万円	177百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
減価償却費	432百万円	466百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間（自2018年4月1日至2018年6月30日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	774	45.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自2019年4月1日至2019年6月30日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	947	55.00	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合 計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	12,795	1,581	14,377	124	14,501		14,501
セグメント間の内部経常収益	21	79	101	82	183	183	
計	12,817	1,660	14,478	206	14,685	183	14,501
セグメント利益	4,158	88	4,246	68	4,315	4	4,311

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務等を含んでおります。
 3 セグメント利益の調整額 4百万円は、セグメント間取引消去 4百万円であります。
 4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合 計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	12,007	1,648	13,656	140	13,796		13,796
セグメント間の内部経常収益	19	82	102	90	192	192	
計	12,027	1,731	13,758	230	13,989	192	13,796
セグメント利益	3,185	108	3,294	19	3,313	4	3,309

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務等を含んでおります。
 3 セグメント利益の調整額 4百万円は、セグメント間取引消去 4百万円であります。
 4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	円	181.61	127.64
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	3,126	2,199
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	3,126	2,199
普通株式の期中平均株式数	千株	17,214	17,233
(2) 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益	円	180.96	127.23
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	百万円		
普通株式増加数	千株	62	54
うち新株予約権	千株	62	54
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要			

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月7日

株式会社 宮 崎 銀 行
取 締 役 会 御 中

有限責任監査法人 ト ー マ ツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 本 芳 樹

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 城 戸 昭 博

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社宮崎銀行の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社宮崎銀行及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。